

第 8 回 プロセス運営委員会（H29.12.21）の主な意見とその対応について

1. 寄せられた意見の概要とその対応について

主な指摘・意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> 現在のホームページは委員会毎に情報を整理しているが、情報量が多くなっているため、初めて見た方もアクセスしやすいように、「事業効果」などの見出しごとにリンクをつけてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ステップ5の最終段階では、「構想段階における計画書」として、概略計画や計画段階以降に必要な取組・検討事項、これまでの計画検討内容、検討プロセスの総括をまとめた資料を作成する予定である。 「計画書」をホームページに掲載する際には、ご指摘を踏まえ、知りたい情報を目次等から把握でき、すぐに当該ページへとたどり着けるよう工夫する。
<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の早い時期から、模型を使ったわかりやすい説明や沖縄の将来の姿を示すなど、PR する必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画案策定後は、より具体的なものをお示しすることが可能となる。今後は、ご指摘を踏まえ、子供達向けや大人向け、市町村向け等、対象者に合わせたシンポジウムの開催や周知広報等に努めていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 議会や市町村からの公式な要請がきているが、県民意見や議会の議決についてはきちんと対応しないとイケない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域から、当該地域への鉄軌道導入を求める意見が来ているが、その場合は、客観的評価に基づきルート案を選定していくこと、鉄軌道の導入と併せてフィーダー交通の充実についても、地域と連携して取り組んでいくことについて説明してきたところであり、引き続き丁寧に対応していく考え。
<ul style="list-style-type: none"> 構想段階後に、ホームページがなくならないようをお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 県民からも今後も継続した情報提供を求める意見等が寄せられており、県としても情報提供の場として、今後も積極的にホームページ等を活用していく考え。
<ul style="list-style-type: none"> パネルがわかりにくいという意見が 1000 件あることから、言葉使いを平易にする努力は今後も続けるべきだが、無理に単純化しすぎて、間違った情報を県民に与えることは避けるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘を踏まえ、今後の情報提供にあたっては、可能な限りわかりやすい表現を用いたり、イラストを活用する等の更なる工夫を行い、わかりやすい情報提供に努めていく考え。

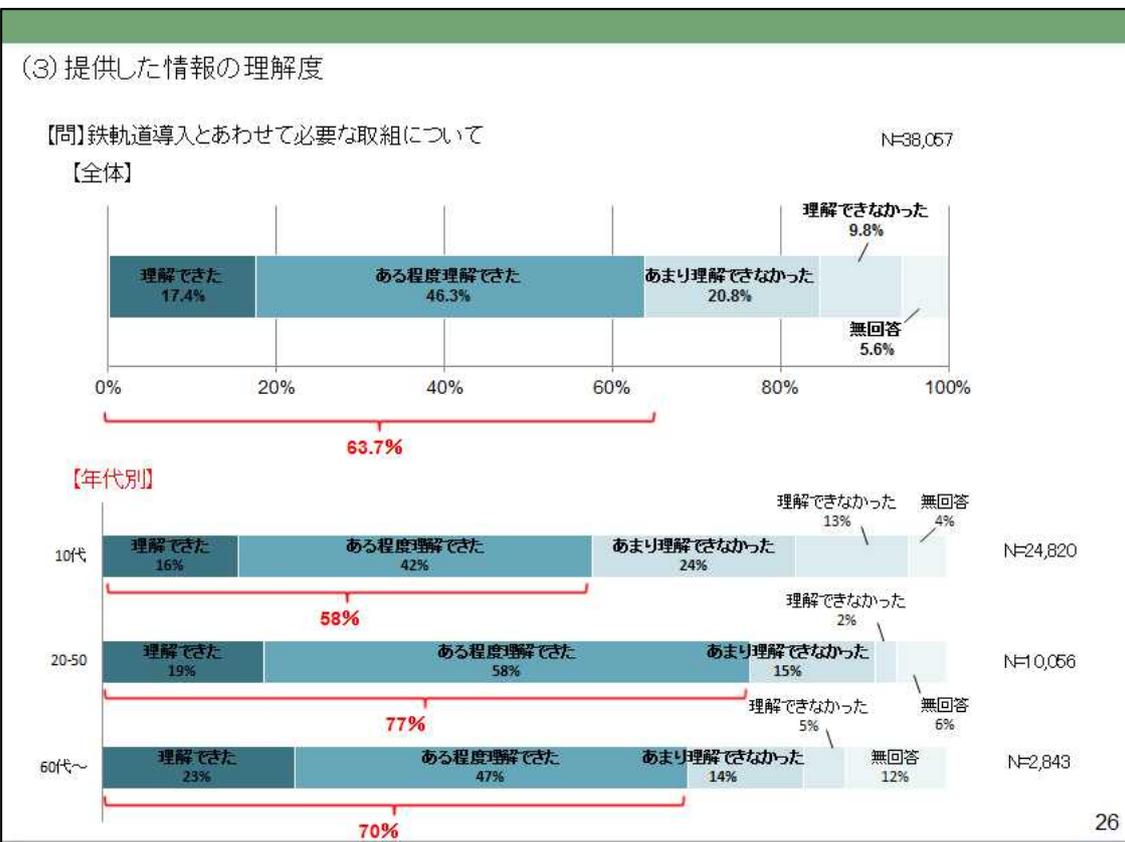
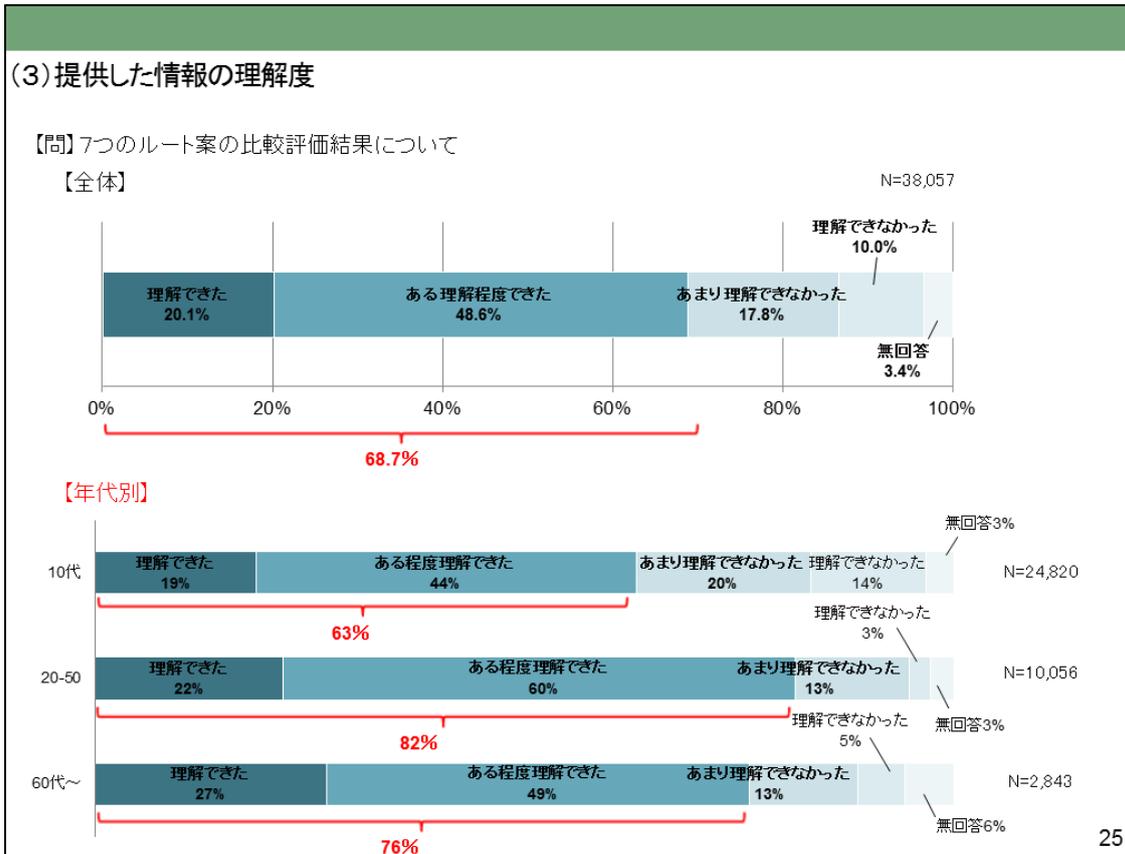
2. ステップ4の評価について

主な指摘・意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢別で10代の方がどのくらい理解したのかの情報を提供してほしい。 ・10代のモニターに資料をチェックしてもらい、わかりやすさを検討してもよいかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年代別の理解度についても、分析を行いその結果を資料6の25～27頁に追加した。(別添1参照) ・分析の結果、10代の理解度は他年代と大きく変わらないが、今後の情報提供にあたっては、ご指摘も踏まえ、わかりやすさをチェックできる方法を検討して対応していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・県民には、いつまで検討しているのかと感じる方もいると思うので、現在どこまで検討が進んでいるかを図などで示してみてもどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、どの段階にあるのかを、ニューズレターの1頁のフロー図でお示してきたところであるが、より分かりやすくなるよう工夫したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・認知度を高めるため、森地委員長や屋井委員長、県知事にも来てもらい記者発表を行ってみてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案検討の終了等における広報のあり方等については、今後委員長とも調整し、検討していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・資料7の4頁でコミュニケーション活動を総括しているが、10代の方が大幅に増えたという記載がないので記載した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、約2万5千人の高校生等を含めた幅広い年代の方々から意見をいただいた旨が分かるように資料7の4頁を追加修正した。(別添2(1)参照)
<ul style="list-style-type: none"> ・資料7の3頁の「ルート案(延伸等)について」は、延伸等が、那覇と名護を結ぶ骨格軸の採算性の低下を招くため不可という結果になったことを、県民に理解してもらえよう、骨格軸の役割等を、もう少し強調したほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、沖縄21世紀ビジョンで描く将来の姿の実現等の観点から求められる那覇と名護を結ぶ骨格軸を維持するためには、採算性の確保が重要であることを、資料7の3頁に追加修正した。(別添2(2)参照)

資料の誤記	修正内容等									
<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ4でアンケートにより確認した鉄軌道導入の取組の認知度について、前回(ステップ3後半)のグラフに誤りがあったため、その評価を修正した。 <p>【誤記の内容】</p> <p>前回(ステップ3後半)の認知度</p> <table border="0" data-bbox="159 1859 718 2016"> <tr> <td></td> <td>「知っていた」</td> <td>「今回知った」</td> </tr> <tr> <td>誤:</td> <td>35.3%</td> <td>63.9%</td> </tr> <tr> <td>正:</td> <td>63.9%</td> <td>35.3%</td> </tr> </table>		「知っていた」	「今回知った」	誤:	35.3%	63.9%	正:	63.9%	35.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・前回(ステップ3後半)の認知度のグラフを訂正するとともに、ステップ4ではステップ3後半に比べ、認知度が約30ポイント低下している理由として、社会人と比較して行政の取組に関心が薄いと考えられる高校生等からの回答が多くを占めたことを資料3に追記修正した。(別添3-1～3-3参照)
	「知っていた」	「今回知った」								
誤:	35.3%	63.9%								
正:	63.9%	35.3%								

3. 今後のスケジュールについて

主な指摘・意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・今後、パブリックコメントを行うことになるが、意見を集めるため、業界や地域団体へ呼びかけるなどの工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ5におけるパブリックコメントにあっても、これまでと同様、広く意見を募集するためニューズレターの全戸配布を行うとともに、可能な範囲で県内各地においてパネル展示やオープンハウスを開催することとしており、幅広い周知に努める考え。
<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ5の検討の進め方（資料8の4頁）では、付帯事項の方が大きく記載されているが、比較評価に基づく選定が重要なので、ミスリードしない見せ方を考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、資料8の4頁を修正した。（別添4参照）
<ul style="list-style-type: none"> ・ステップ5のルート案の選定等の際には、将来的な骨格軸の延伸等について方針等を明確に示す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の骨格軸の延伸に対する考え方や、フィーダー交通の充実に向けた方針等については、付帯事項等と併せて計画案に盛り込む考え。（第9回プロセス運営委員会資料6にて記載）



(4) 評価

【情報の開示状況及び情報内容】

- 計画検討委員会、技術検討委員会及びプロセス運営委員会の審議は一般公開するとともに、委員会資料は全てホームページ上に公開している。
- ニュースレターやパネルは、技術的専門的な検討内容について、専門用語の簡略化、イラストやグラフの活用、見出しを付すなど、わかりやすい情報提供に努めた。

【提供した情報の理解度】

- ステップ4の検討内容は、専門的で情報量も多いものであったが、ニュースレター等で県民へ情報提供した「7つのルート案の比較評価結果」等について、「理解できた」「ある程度理解できた」とした方は、全体では約6～7割、20代以上では7～8割、10代でも約6割となっていることから、一定程度の理解が得られたものと考えている。
- 寄せられた意見からは、「子どもからお年寄りまで誰もが理解しやすいよう、かみ砕いた表現等を活用するなどわかりやすく情報提供してほしい」という意見もあることから、今後の取組等に関して情報提供を行う場合においても、引き続き、専門的内容について、子供からお年寄りまで誰もが理解できるようわかりやすい情報提供に努める必要がある。

以上により、情報は全て公開されていること、検討項目を漏れなく情報提供し、ニュースレターで確認した「7つのルート案の比較評価結果」等に関する理解も一定程度得られていることから、情報提供は適切であったと評価できる。

(1) 第8回プロセス運営委員会資料7 p. 4

3 鉄軌道導入とあわせて必要な取組について

鉄軌道の導入にあたっては、需要確保、利便性向上等の観点から、駅周辺のまちづくりや、公共交通の利用環境改善、県民意識の醸成、フィーダー交通の充実等に取り組んでいくことが重要であり、現在進めている既存公共交通の利用環境改善に向けた取組を着実に実施するとともに、計画段階以降は、県民等から提案のあった利用促進等に関する具体的取組も参考にしながら、市町村や交通事業者と連携して、まちづくりのあり方や、フィーダー交通との連携のあり方等について幅広く検討を行っていくこととする。

また、各取組にあたっては、可能な限り地域住民の意見も取り入れながら検討を行っていきことが求められていることから、これら意見については、まちづくりの主体である市町村とも情報共有を図り、今後の検討につなげていくものとする。

4 コミュニケーション活動

定点調査による認知度は前回よりも低下したものの、アンケートについては、**県内の高校・専門学校等の学生2万5千余人を含め、前回の約4倍となる3万8千人以上の幅広い年代の方々**から回答が寄せられ、さらに、パネル展示やオープンハウスにも前回は大幅に上回る方々に参加いただくことができた。

また、わかりやすい情報の提供など改善すべき課題はあるものの、提供した情報内容に対する理解度も高かったこと、さらに、県民等から寄せられた疑問や質問、配慮・留意を求める意見については、技術的観点から検討及び整理を行い対応を示したこと、今回行ったコミュニケーション活動については、情報提供方法及び情報内容、対話、対応について適切に実施され、ステップ4の検討内容について、県民等との情報共有が図られたものとする。

(2) 第8回プロセス運営委員会資料7 p. 3

II ステップ4のとりまとめ**1 比較評価結果について**

比較評価結果については、難しいとする意見も一部あったものの、理由を明確に示し、評価結果を否定・疑問視する意見は見受けられなかったこと、また、県民等から寄せられた質問・疑問、配慮・留意を求める意見等については、技術的観点から検討・整理を行い、これまでの検討内容について丁寧に説明するとともに、懸念事項等については、今後の検討方針を示すなど、対応を示したこと、ステップ5では、当該評価結果に基づき選定を行っていくこととする。

また、比較評価結果に対しては、様々な効果を期待する意見や、検討にあたり様々な観点から配慮・留意を求める意見が寄せられた他、県民等からも選定にあたっては幅広い視点に基づく検討が求められたことから、ステップ5では、これらの県民等が期待する効果や求める配慮・留意事項等も踏まえ、様々な視点に基づき、よりよい案を選定していくこととする。

加えて、ルートや構造、システム等について具体的検討を行う計画段階以降においては、県民等から求められた配慮・留意事項等も踏まえ、幅広く検討を行っていくこととする。

なお、県民等から寄せられた質問や疑問等に対する回答については、幅広く周知する観点から、ホームページに掲載するとともに、市町村窓口を設置したり、協力頂いた高等学校等へ配布するなど、幅広く情報提供していくこととする。

2 ルート案(延伸等)について

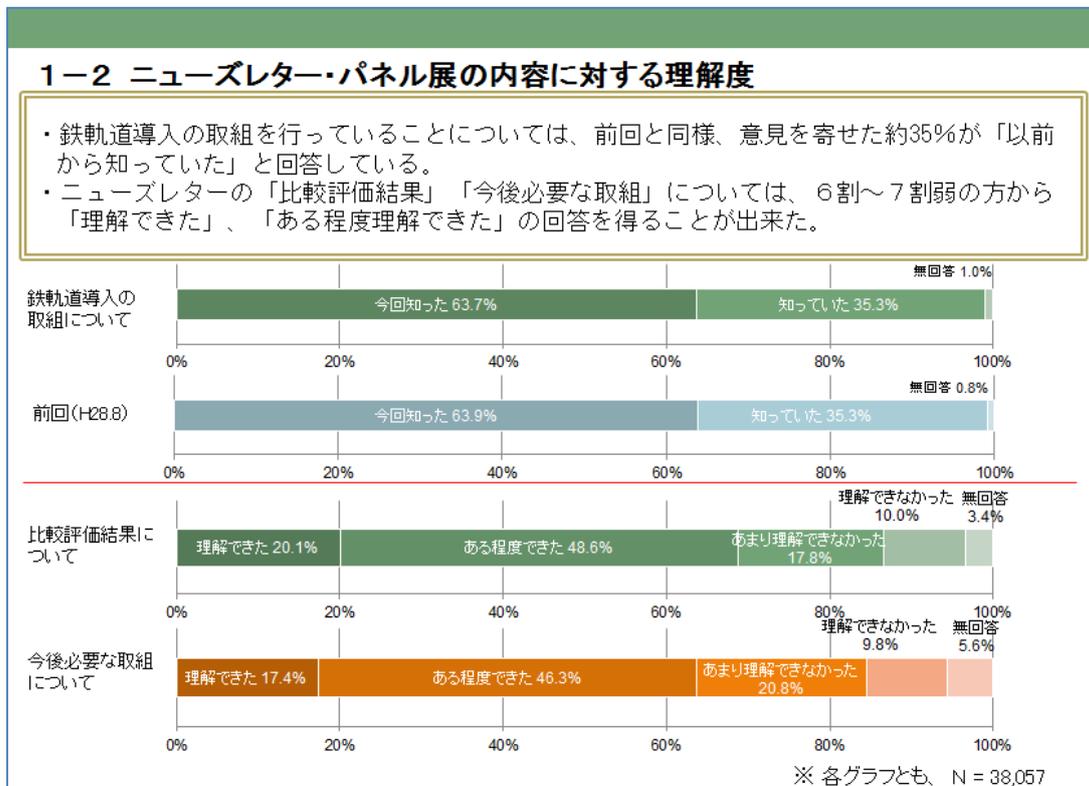
骨格軸のルート案については、沖縄21世紀ビジョンで描く将来の姿の実現等の観点から求められる「那覇と北部圏域の中心都市である名護を1時間で結ぶ公共交通軸の構築による圏域間連携の強化」、「公共交通の役割」を踏まえ検討を進めてきたところである。

ルート案については、県民等から延伸を求める意見が寄せられたが、骨格軸が安定的・持続的に高いサービス水準を維持し、公共交通の役割が持続的に果たされるためには、採算性の確保が重要な視点であり、フィーダー交通の中でも特に需要が多かった糸満方面、与那原方面への延伸の可能性について検討を行ったところ、いずれの延伸区間も採算がとれず、骨格軸の採算性の低下を招くとの結果が得られたことから、那覇と名護を起終点として検討を進めることとする。

しかし、今後、公共交通の利用環境改善等による利用促進が図られ、公共交通の需要が増加することも考えられることから、将来的には鉄軌道の延伸等について、公共交通の利用状況や地域のニーズ等を踏まえ、検討していくものとする。

また、沖縄の将来の姿の実現等にあたっては、鉄軌道の導入と併せてフィーダー交通が連携する利便性の高い公共交通ネットワークの構築が重要であることから、計画段階以降は、フィーダー交通の充実に向けて、市町村や交通事業者等と連携して検討を行っていくこととする。

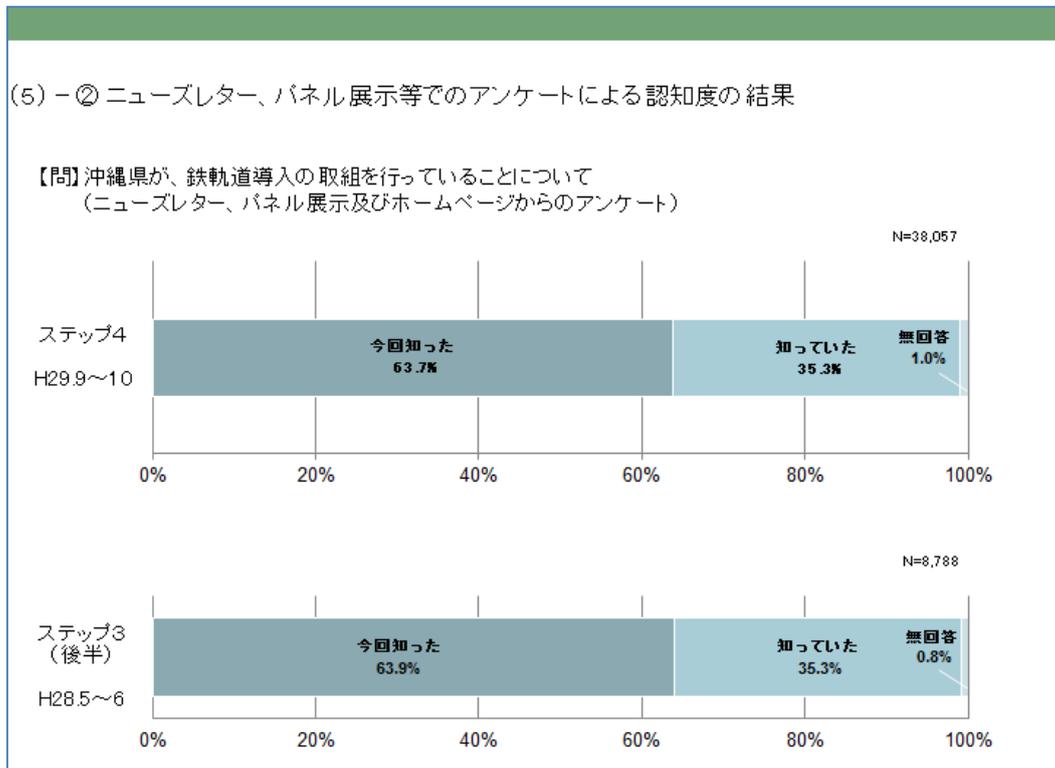
修正前



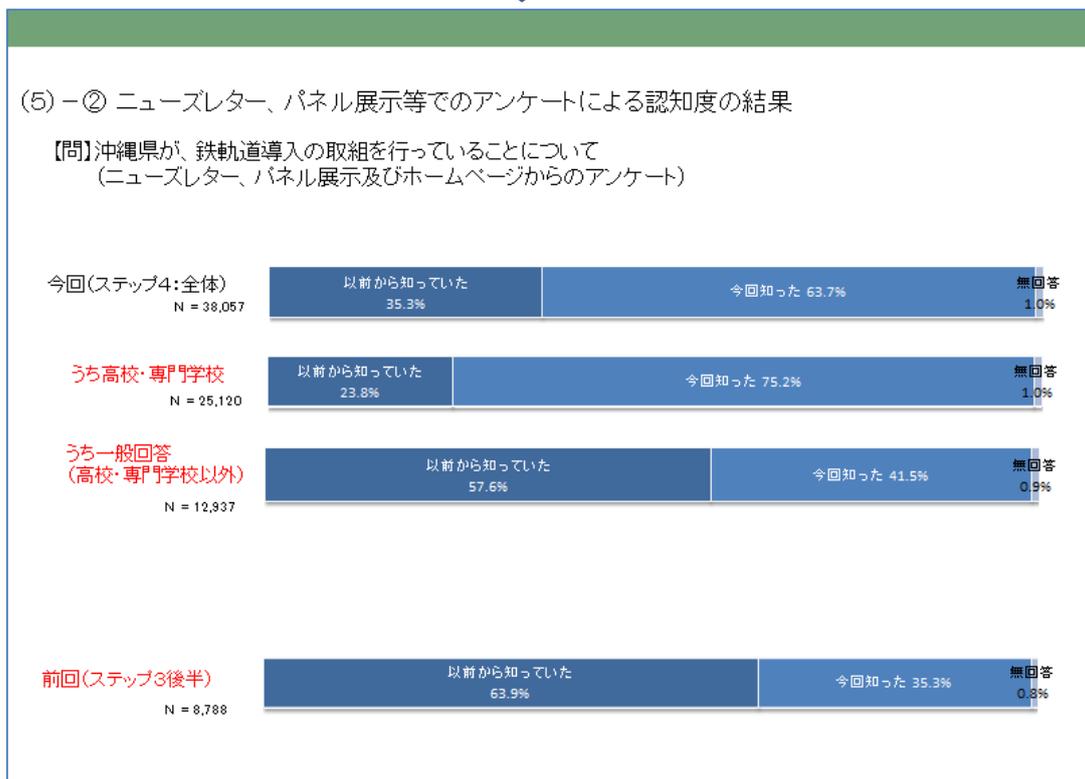
修正後



修正前



修正後



第8回 沖縄鉄軌道プロセス運営委員会資料 資料6 p.17

修正前

(6) 評価

【コミュニケーション実施計画と実施状況】

- コミュニケーション実施計画で計画した活動は、全て実施した。
- 更なる周知を図るため、実施計画にはなかったSNS（ツイッター県公式アカウント）及びラジオ（県政広報ラジオ番組「ラジオ県民室」）により、意見募集についての周知を行った。

【国内における他事例との比較】

- 那覇空港及び福岡空港の滑走路増設におけるPIの事例と比較したところ、パネル展示については、那覇空港5か所、福岡空港7か所に対し、本件は60か所と8～12倍の規模で実施し、寄せられた意見の件数も3～7倍となっており、当事業の情報提供は適切に行われていることが確認できた。

【コミュニケーション活動への県民の参加】

- パネル展示会場でのアンケート実施、高等学校等へのアンケート協力依頼等により、前回よりも約3万人多い約3.8万人から意見が寄せられた。
- ホームページアクセス数は、PI活動期間中（9月3日～10月6日）、延べ4,429回であり、前回よりも1,277回増加した。
- 地元新聞やテレビニュースにより本取組に関し、前回は上回る数の報道がなされ、間接的にも、広く情報が周知されたと考える。

【提供した情報の認知度】

- パネル展示会場等でのアンケートにより確認された認知度は、前回と同程度となっている一方で、定点調査では、本取組に関して10ポイント、具体的な取組に関して6ポイント認知度が低下した結果となっているが、これは、前回のPIから約1年4か月が経過し、県民の関心が薄れ気味になっていたことが原因と考えられる。

以上、今回、認知度については、前回よりも低下したものの、当初計画で予定していた活動は概ね実施したこと、前回の4倍以上もの意見が寄せられたこと、パネル展示やオープンハウスにも前回は大幅に上回る方々に参加頂いたことから、適切に県民等への情報提供は図られたと評価している。

17

修正後



(6) 評価

【コミュニケーション実施計画と実施状況】

- コミュニケーション実施計画で計画した活動は、全て実施した。
- 更なる周知を図るため、実施計画にはなかったSNS（ツイッター県公式アカウント）及びラジオ（県政広報ラジオ番組「ラジオ県民室」）により、意見募集についての周知を行った。

【国内における他事例との比較】

- 那覇空港及び福岡空港の滑走路増設におけるPIの事例と比較したところ、パネル展示については、那覇空港5か所、福岡空港7か所に対し、本件は60か所と8～12倍の規模で実施し、寄せられた意見の件数も3～7倍となっており、当事業の情報提供は適切に行われていることが確認できた。

【コミュニケーション活動への県民の参加】

- パネル展示会場でのアンケート実施、高等学校等へのアンケート協力依頼等により、前回よりも約3万人多い約3.8万人から意見が寄せられた。
- ホームページアクセス数は、PI活動期間中（9月3日～10月6日）、延べ4,429回であり、前回よりも1,277回増加した。
- 地元新聞やテレビニュースにより本取組に関し、前回は上回る数の報道がなされ、間接的にも、広く情報が周知されたと考える。

【提供した情報の認知度】

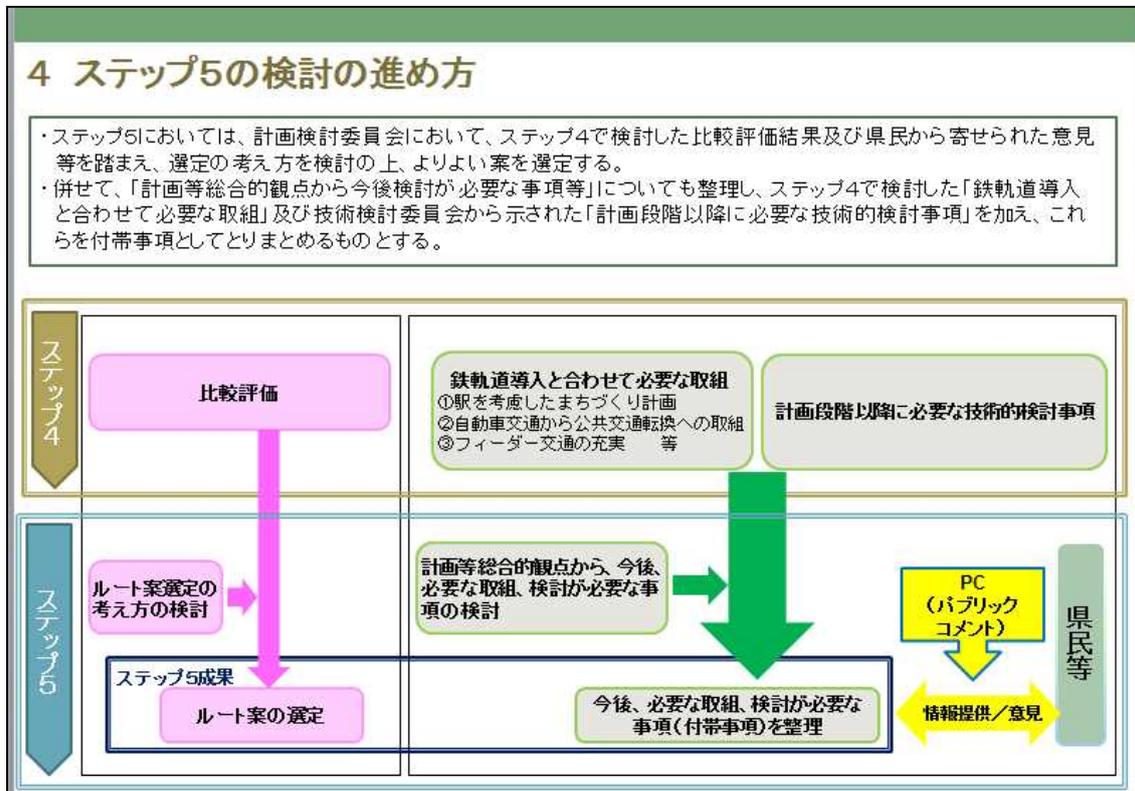
- パネル展示会場等でのアンケートにより確認した認知度は、**前回（ステップ3後半）と比較して約30ポイント低くなっているが、今回、新たにアンケートへの協力を依頼した高校生等からの回答を除くと、認知度の低下は僅かであった。社会人と比較して、行政の取組に関心が薄いと考えられる高校生等の若年層からの回答が多くを占めたことが、認知度低下の要因と考えられる。**
また、定点調査では、本取組に関して10ポイント、具体的な取組に関して6ポイント認知度が低下した結果となっているが、これは、前回のPIから約1年4か月が経過し、県民の関心が薄れ気味になっていたことが原因と考えられる。

以上、今回、認知度については、前回よりも低下したものの、**将来、鉄軌道の利用者となると想定される若年層の多くの方々に当該計画案づくりに参画いただけたこと、また当初計画で予定していた活動は概ね実施したこと、前回の4倍以上もの意見が寄せられたこと、パネル展示やオープンハウスにも前回は大幅に上回る方々に参加頂いたことから、適切に県民等への情報提供は図られたと評価している。**

17

第8回 沖縄鉄軌道プロセス運営委員会資料 資料8 p. 4

修正前



修正後

